



自治税務局企画課電子化推進係長

畠山 祐

HATAKEYAMA YU

平成 23年 10月 総務省採用
自治税務局固定資産税課
平成 25年 4月 岩手県政策地域都市町村課
平成 27年 4月 地方公共団体金融機構管理部庶務課
平成 29年 4月 総務省自治税務局企画課総務室
平成 30年 4月 現職

地方税の電子化とは

求められるもの

「eLTAX」、皆さんはなんと読むでしょうか？イーエルタックス？正解は、エルタックスと読みます。エルタックスは、地方税の申告、納税の手続を電子的に行うための基盤となるシステムです。

地方税は、教育や福祉等の生活に身近な行政サービスを都道府県や市区町村が行うための必要不可欠な財源であり、住民の皆様にご負担いただいているものですが、この地方税をどのように充実・確保していくのかということが我々自治税務局の職員に求められています。

私が担当している業務は地方税の電子化というもので、納税しやすい環境整備を行う仕事をしており、具体的にはエルタックスを活用して、地方税における申告や納税の手続を電子化することにより、手続のコスト削減を目指すものです。

また、政府において、社会全体のデジタル化を進めていく方針であることから、地方税の電子化は待ったなしの状況であり、求められる役割は年々大きくなっています。

道なき道をゆく

単に地方税を電子化せよと言っても、簡単なものではありません。

地方税の電子化を取り巻く環境は年々加速化しており、経済界からの要望も非常に強く、総務省においても積極的に取り組むこととしています。

施策を考える上では、住民の方々の意見やニーズを把握することはもちろんのこと、課税を行う地方自治体にとっても課税事務の効率化に資するものでなくてはなりません。

このように、社会全体からの必要性を感じながら、異なる立場の意見を集約し、双方にとってより良い施策となるよう追求することが求められています。

地方税の電子化は、まだまだ道半ばです。昨今のICT技術の進展に併せて、地方税の電子化の中で新たな道筋をつけていくという意味では、非常にやりがいを感じるとともに、直接住民の方々に関わるものですので、自分の仕事が目に見える形になることは総務省で仕事をする上で大きな魅力の一つです。

Q 今までで一番印象に残った仕事は何ですか？

A 新たな法人の設立に携わったことです。地方税における電子化の重要性が高まる中、地方税の電子化を担うシステムを管理する法人を、新たに法律に根拠を置くものとして設立することになりました。

4月当初には膨大なToDoリストを作成し、本当に法人が設立できるのか不安になる日もありましたが、上司や部下と協力し、大小様々な論点を一つ一つ潰していき、3月に読み返すと、すべてに対応済みのチェックをつけることができ、達成感のある1年間でした。

Q 今後どのような仕事に挑戦したいですか？

A 今後も地方税に携わる仕事をしていきたいと思っていますが、地方団体の現場をもっと知りたいと思っています。地方自治体に出向する機会もありますので、そうした場を活用して、地方団体における実際の課税の現場で仕事してみたいです。自分の経験値を上げていくとともに、総務省での仕事に活かしたいと思っています。

Private
Time

週末は家族とゆっくり過ごすこともありますが、旅行に行くことも多いです。私は岩手県に出向していたこともあり、今でも1年に1回は岩手県を訪れています。出向時によく訪れた場所やお店を巡ることを楽しみにしています。岩手県を訪れたことのない方は、是非一度行ってください！

